

第11回老々クラブ・私の意見発表・優秀賞

河原に菜の花が咲いた

鳴子町川渡白糸会 加賀省 三

私達の住む川渡温泉は奥羽山脈の山ふところにある玉造温泉郷の東端に位置し、鳴子温泉の表玄関にあたる。川渡温泉に入るには国道四十七号線から川渡大橋を渡り江合川を越すとすぐそこが川渡温泉である。

この川渡大橋下流の河川敷一帯に造成していた菜の花畑が今年の四月中旬頃から咲き始め、五月に入るとまるで黄金のじゅうたんでも敷いたように美事に咲き揃い、道行く人々を驚かせた。連日のように車で乗り入れる観光客も見え、五月の連休には三三五五お花畑を散策し、記念写真に収める家族連れで賑い、バイパスからも遠く展望できるようになつて、新聞・テレビ等マスコミでも幾度か報道され、自然と温泉を観光の目玉とする鳴子温泉の玄関を飾るにふさわしいお花畑となつた。

この事業推進の中核は何んといつても川渡白糸会で、「魅力あるそして行動する老人クラブ」をスローガンとする会員の熱情と行動が、この事業を達成する原動力となつた。

事業の重点目標として、

- 一、花いっぱい（環境美化活動）
- 二、祭りに参加（社会参加活動）

三、あいさつ励行（青少年健全育成活動）
四、白糸会だより発行（広報活動）

の四点を掲げて事業を推進してきているが、河川敷の菜の花畑造成事業もその一つである。

たまたま昭和六十年十一月に川渡バイパスが完成したが、このことよつて川渡温泉は国道から離れることになり、地域の話題は専ら町の将来について集中した。このままではやがて忘れられた温泉街になるのではないかと不安を感じざる意見が続出し、数年前から進行している過疎化現象と相まって灰色の沈滞した空気が街を支配し始めた。此の時一番最初に立ち上つたのは川渡白糸会の人達であつた。

老人達はこれまで戦中、戦後の苦難に耐え幾多の逆境を乗り越えて来た経験、少々のことではへこたれない根性、そしてマイナスをプラスに変える知恵を持っている。町内の有力者や若者達に「今こそすべての団体が一致団結して難局に立ち向う時だ」と熱心に説いて廻り、川渡温泉の地域内にある親交会、観光協会、旅館組合そして白糸会の四者会談が実現し、川渡温泉活性化について真剣な討議が何度も繰返えされた。話し合いを続けていくうちに私達の主

張は次第に共感を呼び、大勢はバイパスの完成をマイナスと考える消極論を断ち切って、逆にこれをプラスにする積極論へと変化してきた。

つまり温泉街通過の車輛は減少し、多小寂しくなることは避けられないが、このことはむしろ今迄悩まされてきた自動車の騒音、排気ガスや交通事故の心配をなくし、安心して散策できる、閑静で、空気の澄んだ温泉街の形成につながるもので、これを契機に花が咲き野鳥のさえずる豊かな自然に囲まれた湯治場を皆んなの力で造って行こうと言う方針が打ち出されたのである。その為の事業計画はいろいろと提案されたが、川渡白糸会が二年前から提唱し、手掛けている河川敷に菜の花畑を造成する事業が初年度の共同事業として実施することに決定し、昭和六十一年一月に四団体が大同団結し「菜の花畑を作る会」を結成した。初代会長には提唱者の川渡白糸会から出すということで私が選任されることになり、私達の夢は実現に向けて大きく一歩踏み出したのである。然しながら一口に菜の花畑を作るといっても、その前途には種々の難題が立ちはだかっていた。先ず資金と労力の問題をどうするか。河川敷利用という法的な規制と土地改良との調整をどうするか。瓦礫のような痩せた土地で花を咲かせる為に必要な種子の問題、栽培技術の問題等々。それらを一一つ克服して、石ころだらけの一町二反の河原をお花畑に変身させることができたのは、会員の皆さんがただでさえ汗の吹き出る真夏の炎天下で奉仕作業に参加し

てくれた賜である。

それにも増して嬉しいことは、観光協会青年部の諸君が「川渡白糸会に負けるな」を合い言葉に会員とぞって菜の花畑の奉仕作業に率先して参加し、期せずして祖父、父、孫の共同作業となったことであり、私達の小さな実践があたかも湖面に石を投じたように青年、婦人、成人と次第に輪を広げ地域総ぐるみの活動となり、今地域は同じ目的に向けて、たくましく前進しつゝあることである。

今年に入って地域住民待望の菜の花が綺麗に咲き始めた時、お互に手を取り合って万歳を叫び、誰言うもなく「菜の花祭り」をやるうと言うことになり、五月十日野外にシートを敷いたささやかなお花見会を開催した。集った人達は自分の手で育てた菜の花に、心ゆくまで酔い、トラックの荷台の急造の舞台では子供達を中心に「おぼろ月夜」を合唱。

菜の花畑に入り陽うすれ

見渡す山の端かすみ深し

.....

その歌声は高らかに菜の花畑に流れ、舞台の下では老若男女入り乱れて踊の輪を作り、ほんとうに楽しいお花見であった。

私達は川渡温泉活性化の一環として菜の花畑を作った。

これは次の世代に引継ぐ財産である。それと同時に子供達は、大人達が手を組んで菜の花畑作りに懸命に働く後姿を

見て何を感じたであろうか。お花畑という財産よりも、その方がもっと大きな遺産として子供達の心の中に残ったとしたら望外の幸せである。

子どもたちよ、

みんな仲良く菜の花畑で、鬼ごっこやかくれんぼをしたり、花をつんだり、蝶々と遊んだり、自由に自然を満喫

してくれ。

そして元気な、心やさしい人間に成長してくれ。

